

理事長メッセージ ～読者のみなさまへ～



世界をリードする海洋科学技術で次なる挑戦へ舵を切り、
我が国と国際社会の未来を拓く

令和8年9月
国立研究開発法人海洋研究開発機構

理事長 河村 知 新

地球表面の約7割を占め、その8割近くが3,000m以上の水深を有する海洋は、地球の水や熱、物質循環に重要な役割を果たしており、陸域の気候や気象にも大きな影響を与えています。海はまた、生命の源でもあり、地球上の多様な生物の存立を支える礎ともなっています。四方を海に囲まれた日本にとっては、海を正しく理解し、上手に利活用することがとりわけ重要です。地球規模の環境変動が顕在化してきた昨今では、海洋の観測を通じて気候変動や海洋環境変化の実態と将来像を把握することが特に重要となっています。さらには、海底資源の分布や成り立ち、地震・火山現象の発生メカニズムなどを解き明かすことは、経済安全保障、海洋状況把握(MDA)能力の強化及び防災・減災の観点等から、極めて重要な国家課題でもあります。

国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)は、前身(海洋科学技術センター)の時代から50年以上の歳月をかけ、海洋に関する基盤的な研究開発を積み重ねるとともに、国内外の学术界と強固に連携し、日本のみならず世界の海洋科学技術の水準向上に貢献してまいりました。しかしながら、広大で深遠な海洋には、我々人類が知らない未知の世界がまだまだ残されており、地球最後のフロンティアの一つとも言えます。

JAMSTECでは、今年度より第5期中長期目標期間(2026年4月1日～2033年3月31日)に入っていますが、本中長期目標期間に取り組む6つの重点的研究開発課題のなかには、「地球環境の動態理解と変動予測のための研究開発」が掲げられています。地球温暖化等の地球環境変化の加速に伴う経済・社会に与える影響の顕在化、深刻化が危惧されている今、地球環境変化とその動態を理解し、将来を予測するため、JAMSTECはこの半世紀以上の歩みで獲得してきた経験と知見、技術をもとに国際的な研究枠組みや協力体制を活用し、地球環境変動に関わる多彩な研究開発に取り組んでいます。そして、これらの研究開発により得られた科学的なデータや知見を、国内外の各種活動を通じて提供することで、我が国及び国際社会における政策の立案等にご貢献してまいります。

本報告書は、「環境配慮促進法」に基づき、JAMSTECの事業活動に伴う環境負荷や、その負荷を低減させるための取組みなど、JAMSTECの環境保全活動の概要をまとめた報告書です。環境に係る取組み以外にも、安全や社会的取組み及び2025年度の研究開発成果をまとめたTOPICSや組織概要等を網羅した内容となっています。社会に対して有用な情報を提供することで、事業者としての説明責任を果たすとともに、環境コミュニケーションを促進する内容となっています。

JAMSTECにおける温室効果ガスの削減方針については、「国立研究開発法人海洋研究開発機構地球温暖化対策実行計画」において、「政府実行計画に準じ、2013年度を基準として、JAMSTECの事業活動に伴い発生するエネルギー起源の二酸化炭素排出量を2030年度までに総量として50%削減することを目標とする。」としています。2025年度の温室効果ガス排出量は、2013年度を基準として約36%の削減率となり、2024年度と比較しますと排出量として約4%の減少となっています。減少の主な要因は、JAMSTECの保有する船舶のうち海洋地球研究船「みらい」が2025年12月に退役したことにより、燃料油の使用量が抑制され、エネルギー消費に由来する二酸化炭素排出量が減少したためと考えられます。2030年度までの温室効果ガス排出量50%削減目標を見据え、地球温暖化対策を計画的に推進してまいります。

JAMSTECはこれからも、世界中の皆様へ海からの感動と安心を届ける活動を続けていきます。国民の皆様は誇りに思っただけの存在となれるよう、不退転の決意で未知なる領域へ挑み続けます。海洋の未来を拓く挑戦には、皆様の共感と応援が何よりの原動力です。本報告書を通じて、JAMSTECのさまざまな取組みについてご理解いただきますとともに、今後とも、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。